

コロンビア月例報告（9月分）

外政・内政状況

2011年10月

コロンビア日本大使館

I 概要

【外政】

- 3～4日 オルギン外相の米州民主憲章10周年記念式典（於：チリ）出席
- 6日 非同盟運動50周年記念式典（於：セルビア）出席
- 11～16日 サントス大統領による日本・韓国訪問
- 20～22日 サントス大統領及びオルギン外相による国連総会出席及びカナダ訪問
- 26～28日 フェドトフ国連薬物犯罪事務所（UNODC）事務局長のコロンビア訪問
- 27～29日 オルギン外相によるエクアドル訪問

【内政】

- 5～6日 国防省幹部の交代
- 14日 ノゲラ大統領府治安局長（DAS）に対する有罪判決
- 19～20日 2閣僚の交代
- 22日 FARC幹部から押収した証拠書類に関する分析の発表
- 23日 モレノ・ボゴタ市長の勾留

II 外政

1 オルギン外相の米州民主憲章10周年記念式典出席

3～4日、オルギン外相及びロンドーニョ外務次官は、チリ（バルパライソ）にて行われた「米州民主憲章10周年記念式典及び米州における民主主義へのコミットメントの継続」に関する閣僚会合に参加した。また、会合に出席したインスルサOAS事務総長及びバーンズ米国務副長官とのそれぞれ個別に意見交換を行った。

2 オルギン外相の非同盟運動50周年記念式典出席

6日、オルギン外相は、セルビアにおいて行われた非同盟運動50周年式典に出席した。また、ジェレミック・セルビア外相と会談を行い、自由貿易協定の交渉の可能性につき意見交換を行ったほか、マティノフ・ベラルーシ外相と貿易及びエネルギー協力につき意見交換を行った。

3 サントス大統領による日本・韓国訪問

サントス大統領は、オルギン外務大臣、ロダド鉱山・エネルギー省大臣、ディアス・グラナドス商工観光大臣、カルドナ運輸大臣及び経済界関係者と共に、日本（11～14日）、及び韓国（14～16日）を訪問した。

サントス大統領は、日本において、野田総理との首脳会談、天皇皇后両陛下との御会談、経団連との会合、JETROインフラセミナー出席、国連大学における講演等を行なった。大統領訪日中、投資保護協定の署名、EPA共同研究の開始、一般文化無償資金協力（コミュニティ・先住民ラジオ放送局番組制作機材整備計画）のE/N署名等が実現し、両国の一層の関係強化が図られた。

また、同大統領は、韓国において、李明博大統領との首脳会談、経済団体との意見交換等を行った他、両国首脳臨席の下、「ハイレベル政策協議会設立」、「Look Asia Project 及び包括的電力協力」及び「資源エネルギー開発」、「住宅・国土・都市開発協力」、「環境保護分野協力」に関する覚書署名が行われた。両国は、2012年、修交50周年を迎える予定。

4 サントス大統領及びオルギン外相による国連総会出席及びカナダ訪問

21日、サントス大統領は、第66回国連総会において演説を行い、予防外交の重要性について強調した他、リオ+20に向けた持続可能な開発目標の導入を提案した。22日、安保理会合において、国連憲章に基づき、紛争の平和的解決を目指すことの重要性につき強調した。サントス大統領は、同日、カナダ（トロント）を訪問し、カナダ米州委員会より、本年の国家指導者賞を授与された。

オルギン外相は、国連総会に出席する傍ら、「オープン・ガバメント・パートナーシップ」立ち上げ会合、環境に関するG77+中国による会合、UFC会合、リオ・グループ閣僚会合、ヤスニITTプロジェクト会合に出席した。また、クリントン米國務長官と会談を行ったほか、トルコ、南スーダン、アンゴラ、TT、ウクライナ、アラブ首長国連邦及びナイジェリアの外務大臣との二国間会談を行った。

5 フェドトフ国連薬物犯罪事務所（UNODC）事務局長のコロンビア訪問

26～28日、フェドトフ国連薬物犯罪事務所（UNODC）事務局長がコロンビア政府の招待により、コロンビアを訪問、政府関係者との意見交換を行ったほか、アンティオキアにおけるコカ違法栽培代替プログラムを視察した。

6 オルギン外相によるエクアドル訪問

27～28日、コロンビア・エクアドル国境（ルミチャカ国際橋）において、第16回隣国委員会が開催され、オルギン外相は、パティニーヨ・エクアドル外相との間で、二国

間の関心事項である貿易，移民，エネルギー・インフラ及びテレコミュニケーションについて意見交換を行なった。

Ⅲ 内政

1 国防省幹部の交代

7日，国軍・国家警察幹部の人事異動が発表され，セリ国軍最高司令官（海軍出身）が，駐ドミニカ共和国大使に転出。新司令官は，アレハンドロ・ナバス陸軍中將。また，陸軍司令官として，マンティージャ陸軍中將が，海軍司令官として，ガルシア海軍中將が，空軍司令官として，ピニージャ空軍中將が任命された。

国家警察については，ナランホ国家警察庁長官は留任，国家警察庁副長官として，レオン准將が，検査総局長として，バレ准將が，治安・市民の安全対策局長として，パロミーノ准將が，麻薬対策局長として，ペレス准將が任命された。

2 ノゲラ大統領府治安局（DAS）長官に対する有罪判決

14日，最高裁は，ノゲラ大統領府治安局（DAS）長官に対し，北部自警団に捜査情報を流すなどの便宜を図っていた等の罪で，懲役25年を求刑した。「パラポリティカ」（パラミリタリーと癒着している政治家）問題では最も厳しい求刑であり，また政府高官への求刑としても最も厳しいものとなる。ムニョス現長官は情報漏洩防止のための策を講じており，今後1年以内にDASを解体の上，新たな情報機関を設立すると述べている。

3 2閣僚の交代

20日，閣僚2名の交代が発表された。カルデナス在京大使の実弟マウリシオ・カルデナス氏が，鉱山・エネルギー大臣に任命された。同人は，運輸大臣（1998～1999年），国家企画庁長官（1994年）等を歴任。なお，ロダド鉱山・エネルギー大臣は，駐アルゼンチン・コロンビア大使に転出予定。

また，フランク・パール氏が，環境大臣に任命された。同人は，ウリベ前政権時代，平和や再統合を担当する大統領府高等審議官を務めた経験がある。ベスード環境大臣（任命のみ，実勤は大統領府環境担当高等審議官）は，大統領府環境担当高等審議官にとどまる予定。

4 FARC幹部から押収した証拠書類に関する分析の発表

2008年3月，コロンビア国軍がエクアドル領内のFARCキャンプを攻撃した際に押収したFARCナンバー2の故ラウル・レジェスのPCより入手した証拠書類につき，22日，英国際戦略研究所（IISS）が分析結果を発表した。本件証拠書類は，本年5月，最高裁において，入手手続に瑕疵があったとして，コロンビア国内において証拠能力が否定されたものの，コロンビア政府が同研究所に分析を依頼したもの。同研究所によれ

ば、FARCは、武器購入を目的としたベネズエラからの資金獲得には成功しなかったが、政治、兵站、支配地域の面で支援を受けており、またコレア・エクアドル大統領は、自らの選挙資金に少なくとも10万ドルのFARC資金が流入していることを認識しているとの由。

また、2010年9月、国軍及び警察情報機関の共同軍事作戦により、モノ・ホホイが死亡した際に押収されたPCの当局による情報分析が60%終了し、FARCが進めてきた「農地改革」と称する土地収奪や資金調達、テロ計画等について、重要な情報が得られている。これにより、最高裁により証拠能力を否定されたラウル・レジエスの証拠書類によって検挙できなかったケースにおいて、再度検挙できる可能性がでてきている。

5 モレノ・ボゴタ市長の勾留

23日、汚職の罪で公判中のモレノ・ボゴタ市長（現在職務停止中）は、国外逃亡の虞があるとして、収容された。所属政党であるPDA党の倫理委員会は、党の行動規範に反するとして、同市長を党員から除名した。

（了）